

2023年1-3月 | ぼんぼん時計 NO.74



JSPS BONN
OFFICE

NEWSLETTER

CONTENTS

センター活動報告.....1

第24回日独科学技術協力合同委員会に出席.....1

国際統括本部会議／海外研究連絡
センター長会議に出席.....1

アーヘン工科大学訪問.....2

第13回 日ハンガリー科学技術
協力協議に出席.....3

第7回物理学・応用物理学セミナーに出席.....3

第1回ドイツ研究者ネットワーク
交流会を開催.....4

研究者インタビュー.....5

センター長コラム.....8

今後のイベント.....9

センターからのお知らせ.....10

ブダペストのマーチャーシュ聖堂

当センターはドイツ語圏を中心に中・東欧地域もカバーしており、第13回 日ハンガリー科学技術協力協議出席のためにブダペストを訪問しました。ドナウ川を見下ろす丘の上に建つマーチャーシュ聖堂は、700年という教会の歴史の中で、ブダの豊かさや歴史の象徴、あるいはハンガリー人にとって拠り所としての役割を担ってきたと言われています。13世紀の設計図通りに修復されたゴシック様式や屋根のモザイクの美しさもさることながら、内部の鮮やかな壁画やオーストリア・ハプスブルク家皇妃でありハンガリー王妃でもあるエリザベットの胸像にも目を奪われます。（編集担当：田村国際協力員）



1
Feb

第24回日独科学技術協力合同委員会に出席

日時：2023年2月1日（水） 場所：ボン市内

参加者：須藤副センター長、河合国際協力員、田村国際協力員

2月1日、ボンにおいて第24回日独科学技術協力合同委員会が開催され、両国の関係府省・機関等の関係者が出席しました（一部参加者はオンラインで参加）。同委員会は日独の科学技術協力協定に基づき、両国において交互に開催されているものです。

今回は、両国の科学技術・イノベーション政策の進展や、情報通信技術、水素技術、自動運転技術、海洋・極地研究、地域クラスター、蓄電技術、農業等様々な分野での両国の科学技術協力活動の現状と今後の方向性について議論が交わされたほか、バイオエコノミー分野や研究インテグリティの確保など、今後の協力の可能性のある分野について議論されました。

さらに、両国の研究機関や研究資金配分機関等の間の連携について、双方からの発表と、それに基づく意見交換が行われました。JSPSからは、東京本部の小山佐和国際統括本部専門調査役がJSPS事業における日独間の科学技術協力についてプレゼンテーションを行いました。

次回の合同委員会は日本で開催することで両国が合意し、具体的な期日は、外交ルートを通じて調整されることとなりました。

参照：外務省Webサイト

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press3_001057.html

国際統括本部会議／海外研究連絡センター長会議に出席

2
Feb

日時：令和5年2月2日（木） 場所：コモレ四谷タワー（東京）

出席者：林センター長

JSPS 本部の令和4年度国際統括本部会議／海外研究連絡センター長会議が開催され、コロナ禍後では初めて対面の開催となりました（昨年度はオンライン開催）。各事業部等から、本部における最近の主な動きについての報告があり、理事長のあいさつに続いて、海外研究連絡センター・アドバイザーからの活動報告と自由討議が行われました。ボンセンターからは林センター長が出席し、2022年のドイツの学術動向について報告を行いました。特に、海外での日本人研究者ネットワークの展開方法、各国同窓会との関係や支援の方法、外国人・海外特別研究員等の処遇改善の可能性などについて、出席者間で活発な議論がなされました。

日時：2023年2月9日（木）

場所：アーヘン工科大学 Super C棟

参加者：林センター長、須藤副センター長、河合国際協力員、田村国際協力員

2月9日（木）、世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）における連携活動の一環としてアーヘン工科大学を訪問しました。WPI事業及び研究拠点についてPRするとともに、同大学が採択されているエクセレンス・ストラテジーにおける取組について情報収集を行いました。エクセレンス・ストラテジーとは、ドイツの大学におけるトップレベル研究を強化するのみならず、大学組織の発展を奨励し、ドイツの研究・高等教育システム内での協力体制を強化することを目的として、連邦政府・州政府が共同で実施する補助金事業です。採択された機関には「エクセレンス大学」という称号が与えられるとともに、原則恒久的な資金援助が確約されています。アーヘン工科大学は2019年に採択された全11団体（10大学+1大学コンソーシアム）のうちの一つです。

同大学では主に10のカテゴリに分類した取組を実施しており、今回のインタビューでは各取組について詳細にご紹介いただきました。特に、将来的に大規模な研究プロジェクトにつながることを期待し、規模を問わず学際研究・分野横断型研究を幅広く支援することで大学全体の研究力強化を目指しているという方向性が印象的でした。更に工学系に強い大学ならではの強みとして、研究成果・技術のビジネスへの移転や多様なステークホルダーを巻き込んだ研究活動が実施されているという点は、日本の科学技術関連政策・事業においても大いに参考になると思われます。



▲全員での記念撮影



▲アーヘン工科大学 Super C棟

一方で、WPI事業での取組と同大学のエクセレンス・ストラテジーでの実施内容の間では、基礎研究指向と応用研究指向という違いはあれ、若手研究者を含む人材育成や国際交流の強化を目指す点が共通項となっているようでした。エクセレンス大学は単なる称号というよりは、安定的かつ潤沢な研究費が措置されたうえで質の高い研究が行われているとドイツが国家として保証しているということを意味し、国際的な人材流動性がますます高まる中で優秀な人材を確保するうえで重要なファクターとなっている様子を窺い知ることができました。

今回の訪問を通じて、本センターと同大学間で今後も相互に情報交換・交流できる関係性も構築することができました。当センターでは、日本の優れた研究の認知度向上に資するべく、引き続きドイツ国内の研究機関への訪問や各種イベントを通じてWPI事業及び各拠点の取組・成果を積極的に発信していきます。

第13回 日ハンガリー科学技術協力協議に出席

日時：2023年2月21日（火）、2月22日（水）

場所：ブダペスト市内

参加者：河合国際協力員、田村国際協力員

2月21日、ハンガリー・ブダペストにおいて、第13回日ハンガリー科学技術協力協議が開催され、両国の関係府省・機関等の関係者が出席しました。今回で13回目の開催となる本協議は、1979年5月に両国が署名した「科学技術の分野における協力に関する交換公文」に基づき開催されており、2019年12月の日・ハンガリー首脳会談において、次回協議をブダペストで開催することが合意され開催に至ったものです。

今次協議では、嘉治美佐子科学技術協力担当大使とサボー・イシュトヴァーン国家研究開発イノベーション庁副長官（Dr. István SZABÓ, Vice-president, National Research, Development and Innovation Office(NRDI)）が共同議長を務

め、両国の科学技術・イノベーション政策の進展や両国の科学技術協力活動の現状と今後の方向性について議論が交わされました。また、レーザー研究、医療等、今後の協力の可能性のある分野について議論が行われたほか、両国の研究機関等の間の連携について、意見交換が行われました。JSPSからは東京本部の三輪善英国際統括本部長が出席し、JSPS事業における日・ハンガリー間の科学技術協力についてプレゼンテーションを行いました。

日・ハンガリー双方は、次回協議を日本で開催することに合意し、具体的な期日は外交ルートを通じて調整することとなりました。

参照：外務省Webサイト

https://www.mofa.go.jp/mofaj/erp/c_see/hu/page4_005793.html

第7回物理学・応用物理学セミナーに出席

日時：2023年2月24日（金）

場所：マックス・プランク研究所ポツダムキャンパス

参加者：林センター長、須藤副センター長、河合国際協力員、田村国際協力員

2月24日（金）、第7回物理学・応用物理学セミナーが開催されました。本セミナーは、ドイツにて物理学の研究に携わっている研究者同士の交流、ドイツでの物理学研究者ネットワークの構築を目的としたもので、コロナ後初の対面開催となった今回は、ドイツ各地から約20名の研究者・大学院生が参加しました。本ネットワーク世話人の理化学研究所の森本裕也白眉研究チームリーダー及びアドバイザーを務めるマックス・プランク天体物理学研究所の小松英一郎所長による開会の挨拶を皮切りに、マックス・プランク重力物理学研究所ディレクターの柴田大教授及びフリッツ・ハーバー研究所グループリーダーの塩足 亮隼氏の招待講演のほか、3名による一般公演、意見交換、質疑応答が行われました。また、当センターの河合国際協力員より、在独日本人研究者支援及び国際交流事業等の JSPS事業説明を行いました。本ネットワークを通じて、物理学・応用物理学分野の在独日本人研究者の交流が更に深まることが期待されます。

全員で記念撮影▼



▲会場をご提供いただいたマックス・プランク重力物理学研究所 柴田教授のご講演

第1回ドイツ研究者ネットワーク交流会を開催

日時：2023年2月25日（土）

場所：在ドイツ日本国大使館（ベルリン）

2月25日、在ドイツ日本国大使館において、第1回ドイツ研究者ネットワーク交流会を開催しました。本交流会は、研究者有志が中心となり、在独日本人研究者のネットワーキングを目的に企画・開催されたものです。

週末かつ雪が降る中でしたが、会場となった在ドイツ日本国大使館には、分野・所属・肩書を越え、ドイツ全土から60名以上の研究者の方々が集まり、予想を超える大盛況となりました。

▼全員で記念撮影



の井上茂義教授、リューベック大学の三浦央子グループリーダー、ハイデルベルク大学博士課程の鈴木里沙氏がパネルディスカッションを行いました。トピックはドイツでの生活情報から、ワークライフバランスや家族の問題、ドイツの研究環境におけるキャリア形成など多岐にわたり、会場からも質問や体験談が寄せられました。短い時間ではありましたが、分野もキャリアも異なるパネリストの方々による多面的な視点は、参加者の皆さんにとっても刺激となったようです。

最後に大使館及び当センターからのお知らせの後、林センター長の挨拶により会が締めくくられました。

終了後は、柳大使の御厚意により、公邸でのレセプションにお招きいただき、参加者同士の交流がますます弾んでいた様子でした。

第2回は9月下旬に開催予定です。詳細は追ってお知らせしますので、皆様奮ってご参加ください。

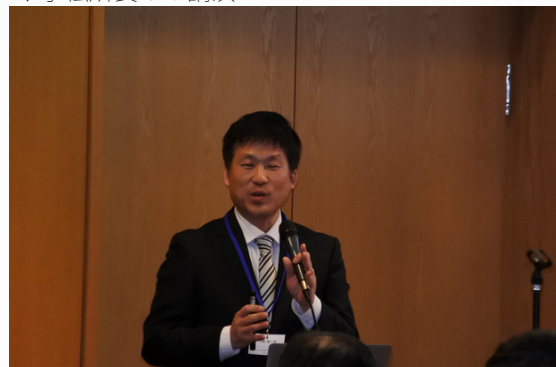
（写真提供：在ドイツ日本国大使館）

会の冒頭、柳秀直特命全権大使よりご挨拶を賜ったのち、参加者全員が簡単な自己紹介を行いました。その後、小松英一郎マックス・プランク宇宙物理学研究所長から、ご自身の経験を交えて日米独の研究環境やキャリアパス、研究費のしくみ等についてご講演をいただきました。熱意とメッセージあふれるご講演に、会場の参加者は熱心に聞き入る様子が見られました。小松所長のご講演スライドは、以下の小松先生のWebサイトからダウンロードいただけます。

<https://www.mpa.mpg.de/~komatsu/presentation/berlin-research.pdf>

続いて、本交流会の発起人であるハイデルベルク大学の石川浩史氏、マックス・プランク固体化学物理学研究所の今里和樹氏（ともにJSPS海外特別研究員）のモデレートのもと、小松所長、ミュンヘン工科大学

▼小松所長のご講演



▲パネルディスカッション

研究者インタビュー

Researchers Interview

Saskia Schimmel

Former JSPS Postdoctoral fellow

Postdoctoral researcher at the Chair of Electron Devices, Friedrich-Alexander-Universität (FAU) Erlangen-Nürnberg, Germany



Fellowship type

Standard Program (June 2019 - May 2021)

Affiliation during the fellowship

Institute of Materials and Systems for Sustainability, Nagoya University, Japan

Postdoctoral Fellowships for Research in Japan

To promote international scientific cooperation, JSPS encourages highly qualified researchers from the world over to come to and conduct joint research activities with colleagues at Japanese universities and research institutes.

JSPS offers four postdoctoral fellowship programs, each with different eligibility requirements.

■Pre/Postdocs

Summer Program

Strategic Program *Offering was ended

Short-term Program

■Postdocs

Standard Program

▼JSPS Website

<https://www.jsps.go.jp/english/e-fellow/>



Academic/Career Background

I studied Materials Science at FAU Erlangen-Nürnberg in Germany, with one year during my Master studies spent at Linköping University in Sweden.

Thereafter, I did my PhD in Engineering at FAU with Prof. Peter Wellmann. My topic for PhD was *In situ visualization of the ammonothermal crystallization process using x-ray measurement techniques*. That topic also got me into the community of nitride semiconductor crystal growth. At a conference in Finland late during my PhD, I was asked whether I could see myself coming to Japan for a Postdoc, which got me thinking about that possibility. Later, I learned of the emerging opportunity to pursue the ammonothermal crystal growth of gallium nitride (GaN) in the laboratory of Prof. Hiroshi Amano, the group that I then joined for my JSPS fellowship. Sort of on my way to Japan, I also joined the laboratory of Prof. Siddha Pimputkar at Lehigh University (USA) for 6 months.

“ What kind of research are you currently engaged in?

Currently, I am in the process of setting up my own research group. The first project focusses on *Novel Nitride Materials for Electronic Devices*, for which I was fortunate enough to get funding via the Emmy Noether Programme of the German Research Foundation (DFG). The experimental capabilities of the laboratory will gradually be expanded in a way that is also attractive for collaborations and international exchange.

“ How and why did you become interested in your field of research?

In my Bachelor study program, there was a lecture on materials for electronic devices or similar, which I found particularly interesting. Thus, I looked for a student assistant position in that field, and for some reason I chose the one targeting the wide bandgap semiconductors SiC and AlN. Later, when looking for a topic for PhD, my Master's thesis supervisor in Germany offered me to work on his new project involving the ammonothermal method.



▲On the summit of Azumaya-san in early May 2021 during the last mountaineering trip of my stay in Japan.

“ Why did you choose Japan and your host institution as the place to carry out your research?

It was a unique opportunity in several ways. By working in a collaborative project in which both academic and industrial partners from Japan were involved, I could get broader insights, not only on the scientific and technical level but also from a cultural viewpoint. The combination of continuity regarding the overall topic with plenty of opportunities for learning new things and making new experiences was attractive to me. I knew I would be working with very knowledgeable people, on top of it all with a host with exceptional reputation and visibility.

“ What was your impression of the research environment in Japan compared to other countries you have experienced?

A close integration of industrial researchers into university workplaces seemed particularly common. In Germany, this is more likely to be found at research institutes, especially Fraunhofer institutes. As for the working conditions, I think there is a lot of variation within every country, so it is difficult to make general statements and it is important to consider the culture of the specific research group. The level of technology and funding seemed comparable for the countries that I have been working in.

“ How did you enjoy your time in Japan? Did you experience anything interesting or difficult?

I enjoyed my time in Japan a lot, which includes both working and leisure time. It was a very interesting experience to sort of start from scratch in terms of language and culture, which inspired me to think about human behavior from new perspectives. I must admit that I am still struggling to learn the Japanese language, which remains a huge challenge for me. However, I was able to work productively. To some extent, I also managed to engage with local people even if they did not speak much English, for instance on my much-enjoyed trips to mountains and hot springs.



▲Participants of the three-day excursion of Prof. Amano's research group in September 2019 in front of the bridge to Oshima Island in Fukui Prefecture.

“ How do you think your experience in Japan has influenced your research and career?

It played a very important role in building an international research experience and overall scientific track record that is apparently perceived as convincing by people who evaluate grant applications. The interpersonal relationships built during my time in Japan will facilitate collaborations, which will also benefit from the cultural insights that I gained. I think that my stay has also fostered my creativity and personal development, which I believe will be useful in my upcoming role of leading a team of researchers.

“ Do you have any advice for researchers interested in working in Japan or in German Japanese research cooperation?

Especially for those who plan to live in Japan, my recommendation would be to start learning the Japanese language as early as possible. However, if that is not feasible, then your lack of Japanese language skills should not hold you back. Another recommendation is to take your time for observing and evaluating the effects of the cultural practices of the countries one has experience with. It teaches respect as well as mental and behavioral flexibility.

ドイツでは、建物や公共交通機関のなかでマスクをつけている人の姿をほとんど見かけなくなった。それに連れて実参加のイベントも増え、このところ出歩く機会が多くなってきた。

2月25日には、主としてドイツ在住の日本人研究者を対象として、ベルリンの日本大使館でネットワーク交流会（第一回）が開催された。JSPSボンセンターでは、この交流会の企画・運営に協力し、ボンから4人が参加した。交流会は好評で、ドイツ全土から60名以上の研究者が参加した。

海外在住の日本人研究者ネットワークの重要性のひとつは、若手研究者がキャリアパスを考えるために必要不可欠な情報を得られることである。学術機関の研究者という職種は、日本でもめずらしく世界標準に近い雇用システムが成立している世界である。すなわち新卒一括採用は無いし、年功序列もあまり機能していない。若くして終身雇用の職に就けることは稀である。

第1回
ドイツ研究者ネットワーク交流会

在独日本人研究者のネットワーキングを目的とした交流会を開催します

企画・開催：研究者有志、在ドイツ日本国大使館、JSPSボン研究連絡センター

2023年2月25日（土）
在ドイツ日本国大使館（ベルリン）

参加登録受付 2月5日まで

<https://forms.office.com/r/mBzTxGYaFe>

【基調講演】
日米独の研究環境やキャリア形成について
ご講演いただく予定です
小松 英一郎
マックス・プランク宇宙物理学研究所 所長

対象
在独日本人研究者（PI、Post-doc、博士課程学生等）
研究分野を問わず広く参加者を募ります

日時
・2023年2月25日（土）14時～
・在ドイツ日本国大使館（Hiroshimstraße 10, 10785 Berlin）
多目的ホール（交流会）＋同敷地内の大使館（レセプション）
※駐車場はございませんので、恐れ入りますが公共交通機関をご利用ください

内容
自己紹介、在独研究者講演、パネルディスカッションなど（調整中）
交流会終了後、立食レセプション（17時頃開始予定）

注意
事項
・参加費無料
・プログラムは参加者に通知
・通知メールと身分証を持参ください

世話人
石川 浩史（ハイデルベルグ大学）
今里 和樹（マックス・プランク研究所）
新野 かおり（名古屋大学、イェーナ大学）
お問い合わせ：石川 浩史（kishikawa@zmbh.uni-heidelberg.de）
鈴木 悟司（在ドイツ大使館、wissenschaft@bo.mofa.go.jp）





▲ドイツ研究者ネットワーク交流会
次回は9月下旬を予定

センター長コラム

Director's Column

たとえば海外特別研究員の場合、任期は2年であり、ドイツに来て研究を始めると、すぐに次のポジションのことを考えねばならなくなる。ドイツに残るべきか、日本に帰るべきか、それ以外の国で新たなポジションを探すべきか。ドイツに残る場合には、どういうキャリアパスがあるのか。それを実現するためにはどうすればよいのか…。若手研究者の悩みは尽きないであろう。

ボンセンターでは、海外特別研究員オリエンテーション兼キャリア・フォーラムを毎年開催していて、経験を積んだドイツ在住の日本人研究者に、ドイツでのキャリアパスの築き方に関する講演をしてもらっている。出席した若手研究者からは、これが非常に有用だったという話を聞く。

昨年11月のオリエンテーションに参加した海外特別研究員の二人が、このようなドイツ在住の研究者どうしの交流をより活性化したいと考えたようだ。このオリエンテーションには、大使館の科学技術担当の方も参加されており、ドイツでの日本人研究者ネットワークを充実させたいと考えておられたようだ。これらの人たちが中心となって、今回の第一回交流会の開催へとつながった。

これまで、このようなネットワーク形成のための交流会には20人程度の研究者が集まれば多い方だったが、今回はそれをはるかに超える研究者が集まった。参加した研究者からは、たいへん有意義な交流会で、ぜひ次回も参加したいとの声が聞かれた。

このような重要な交流会を企画・実施された世話人の皆さんと、交流会場を提供いただいたき、レセプションまで開いていただいたベルリンの日本国大使館に、あらためて感謝を申し上げます。

12-13 May 第26回 日独学術シンポジウム

2023年5月12日（金）、13日（土）
キール大学（ドイツ・キール）

テーマ：Life Under Extreme Conditions

対象：主にドイツ語圏で活動する研究者（所在国、
分野、職位、所属課程等不問）

開催方法：ハイブリッド開催、英語

▶ドイツ語圏日本学術振興会研究者同窓会との共催で、日独双方から第一線で活躍する研究者を講演者として招いたシンポジウムを開催します。詳細は下記Webサイトをご覧ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/events/symposium>

＼4月3日（月）まで／



参加登録はこちらから

23 Sep 第2回ドイツ研究者ネットワーク交流会

2023年9月23日（土）午後 ※予定

ケルン日本文化会館（ドイツ・ケルン） ※予定

▶2023年2月25日（土）に開催しご好評をいただいた交流会の第2弾を開催予定です。詳細は調整中のため、上記日時・場所は変更となる可能性があります。

決まり次第当センターWebサイトやTwitter等でお知らせします。

TBD オンライン事業説明会

日程調整中／オンライン

▶研究者の皆様向けに、キャリアステージやニーズごとに4つのテーマで本会の事業をご紹介します。オンライン説明会を計画中です。詳細は、決まり次第当センターWebサイトやTwitter等でお知らせします。

事業説明会のご依頼をお待ちしております！

本会の各種事業について研究者や職員のみなさまに広くご活用いただきたく、当センターのスタッフがご依頼のあった大学や研究所等にお伺いし事業のご紹介をする「事業説明会」を随時開催しております。シンポジウムや勉強会など各機関主催イベントの一部としても実施可能です。内容や対応言語（主に日本語及び英語）はご要望に合わせて調整可能ですので、メールまたは電話等でどうぞお気軽にご相談ください。

センターからのお知らせ

Information

ドイツ学術ニュース

これまでドイツ学術ニュースをばんばん時計に掲載してきましたが、今年度から本紙面での掲載を休止し、ボンセンターWeb サイトのみで公開することといたしました。毎月 1 回のペースで更新予定ですので、ぜひ下記 Web サイトからご覧ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/research-in-germany>



在独日本人研究者登録のお願い

本センターでは、ドイツ語圏でご活躍の日本人常勤研究者（教授、准教授、研究所グループリーダー等）で、JSPS の事業等の情報配信を希望する方、在独日本人若手研究者の支援にご協力いただける方などのご登録をお待ちしております！

詳細は当センターWebサイトをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/in-germany>



お知らせメールの配信

ドイツ語圏で活躍中または渡航検討中の方向けのお知らせメール配信を始めました。イベントや公募情報等を不定期（月 1～2 回程度）配信しますので、ぜひご登録ください。

詳細は当センターWebサイトをご参照ください。

<https://www.jsps-bonn.de/ja/to-all-japanese-researchers/info-mail>

＼イベントや各種公募情報などをお届けします／



FOLLOW

US ON TWITTER

@JSPS_BONN



JSPS BONN OFFICE

日本学術振興会ボン研究連絡センター

Wissenschaftszentrum

Ahrstrasse 58, 53175 Bonn（事務所住所）

Postanschrift: 20 14 48, 53144 Bonn（郵便物用）

E-mail: bonn-info@overseas.jsps.go.jp

Tel: +49(0)228-375050

Fax: +49(0)228-957777

www.jsps-bonn.de